

「夜も寝られない」コメ不足一転「コメ余り」価格下落で在庫は過去 10 年で最高 卸売りと農家の現実



米不足が指摘され、高値で取引されたここ数年から一転、全国の米の在庫量が過去 10 年で最高水準になっています。米価は下落し、高値で仕入れていた販売店は大幅な赤字に。肥料や燃料代などがかさむ農家は新米の価格が見通せず、深刻な状況です。この先の展望は？

出口米肥店 出口善章さん

「これは米です、玄米ですね」

滋賀県で 140 年以上続く米の卸売り店。厳しい状況が続いているといいます。

出口米肥店 出口善章さん

「年明けくらいは米の山で、考えたら夜も寝られませんが、50 年近くこの商売をやっていますけど、こんなことは初めてですね」

米不足が指摘され、高値で取引されていたここ数年から一転、全国の米の在庫量が、過去 10 年で最高水準となっているのです。

これに伴い、価格も下落。

出口米肥店 出口善章さん

「去年（2025 年）の秋以降、玄米相場が暴落して（一方で仕入れ値が）高すぎて売れない。逆に、最後は投げ売りみたいな形で売った形ですね」

去年（2025 年）の仕入れ価格が高騰していたため、いまの販売価格で卸すと、大幅な赤字になると言います。

そのため出口さんの店では、少しでも高く売れるよう、地元向けの販売会を開いたり、販売先を飛び込みで開拓したりすることで、赤字幅を減らしつつ、今後、卸先が減った場合などのリスクに備えているといいます。

ただ、関西の別の卸売り業者に話を聞くと、状況はより深刻です。

関西の別の卸売り業者

「例年と比べ、2倍の在庫を抱えている」

この卸売り業者は、売れなかった米を秋以降に「古米」として販売する予定で、損失は10億円前後にもなるということです。

一方、米の値下がりには、農家にとっても深刻です。

滋賀県高島市の農家では、田植えが大詰めの時期を迎え、肥料をまく作業などが続いていました。いまは、肥料や燃料など、田植えに必要なものの多くが高騰しているといいます。

米農家 兼田治雄さん

「エンジンオイルも倍ですわ。何年か前と比べたらね。肥料も1.5倍とか、苗も30%くらいあがったりとか、すべてが上がっていますね」

価格の高騰は隔々まで...

米農家 兼田治雄さん

「これはグリスとって、（農機具に使う）潤滑ですね」

（Q：これも（価格が）上がってる？）

「上がっています。袋（容器）が上がっているみたいです」

（Q：本体も袋も？）

「入れる袋も全部上がってるんです」

田植えにかかる費用は、例年と比べ、2割ほど高くなっているということです。ただ、米の生育は今後の天候などに大きく左右されるため、新米が実る秋以降の価格は、なかなか見通せないといいます。

米農家 兼田治雄さん

「もう秋（の収穫）に期待するしかありませんね」

（Q：なかなか先が見通せない？）

「もう、運ですね...」

最終更新日：2026年6月10日 18:04